

臨床医が知っておきたい 認知症診療における脳SPECT検査の意義

～私は認知症を診断するためにこのように活用しています！～

認知症を判断するためには患者さんの生活状況をよく知る家族や周囲の人々からの詳細な病歴聴取と患者さんへの丁寧な問診・診察が重要である。その後に頭部CTスキャンやMRIを利用して頭蓋内の治療可能な病態を除外していくことが求められる。では、脳SPECT検査をどのように利用したらよいのだろうか。認知症か否かの判断が困難な事例や原因疾患の鑑別、血管性認知症の背後に潜む変性性疾患の探索などが主な目的になるのではなかろうか。

本講演では、実臨床における脳SPECT検査の意義と有用性についてわたしの経験から考えてみたい。

演者

川畑 信也先生

社会医療法人 財団新和会 八千代病院 神経内科 部長
愛知県認知症疾患医療センター長

日時

2019年11月14日（木） 19:00 - 19:45

事前登録サイト

URL

lpage.nmp.co.jp/c



QRコードから
もアクセスいた
だけます

事前登録いただいた方には、講演会当日に、リマインドメールを差し上げます。
認知症関連のお役立ち情報をダウンロードできるサイトをご案内します。

*事前登録サイト申し込み期限：11月12日（火）17時

当日視聴サイト

URL

<https://nmp.m3dc-vs.com/>

視聴コード

nmp1114



QRコードから
もアクセスいた
だけます

講演会開始30分前より、
視聴ページへアクセスいただけます。

ご視聴当日の
お問い合わせ先

TEL 050-3186-4559
11月14日（木）18:00～19:45

●ご登録いただきました情報は、次回講演会などのご案内に利用させていただきます。上記情報は、日本メジフィジックス株式会社により厳重に管理いたします。